

平成26年(ネ)第126号 大飯原発3, 4号機運転差止請求控訴事件

一審原告 松田正 外184名

一審被告 関西電力株式会社

証 拠 説 明 書

平成28年10月14日

名古屋高等裁判所金沢支部民事部第1部C1係 御中

一審原告ら訴訟代理人弁護士 佐藤辰弥

同 弁護士 笠原一浩

ほか

*以下はすべて写しである。

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲331	「科学」2016年7月号653-660頁『最大クラスではない日本海「最大クラス」の津波一過ちを糾さないままでは「想定外」の災害が再生産される』	H28.6	島崎邦彦	入倉・三宅式によって垂直あるいは垂直に近い断層から発生する地震の地震モーメントを予測すると過小評価になること	
甲332	Yahoo!ニュース	H28.6.11	時事通信	島崎邦彦氏が「(入倉・三宅式を使う)今のやり方のままで良いと言った瞬間、うそになる。問題があるという認識を持たないといけない」「(入倉・三宅式の使用は)危険極まりない」と述べていること	
甲333	新聞記事「地震動『過小評価』の波紋	H28.6.19	中国新聞	原子力規制庁及び島崎氏は、平成26年の時点で、長沢啓行・大阪府立大学名誉教授の指摘を受けて、入倉・三宅(2001)の過小評価のおそれを認識していたが、対応を先送りになっていたこと 島崎氏は長沢氏の指摘につい	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
				て、「ポイントを突いた議論だった」と話していること	
甲 3 3 4	島崎前原子力規制委員会 委員長代理との面会の概 要について	H28.6.20	原子力規 制庁	入倉・三宅(2001)による過小評 価のおそれに関する島崎氏の指 摘に関し、原子力規制委員会が島 崎氏と面会した際の聴取結果の 概要	https:// www.nsr. go.jp /data/0 0015405 0.pdf
甲 3 3 5	平成28年度原子力規制委 員会 第16回会議議事録 (抜粋) 表紙、議事次第、26~31頁	H28.6.20	原子力規 制委員会	島崎氏の指摘を受けて、原子力 規制委員会は、規制庁職員に対し 、大飯原発の地震動評価について 入倉・三宅(2001)とは違う式で行 うよう指示をしたこと	https:// www.nsr. go.jp /data/0 0015477 8.pdf
甲 3 3 6	大飯発電所の地震動の試 算結果について (下記第 20 回会議資料)	H28.7.13	原子力規 制庁	原子力規制庁が入倉・三宅式を 武村式に入れ替えて大飯原発の 基準地震動を試算したところ、地 震動は入倉・三宅式を用いた場合 の約 1.8 倍になる、という結果 が出たが、関西電力が使用してい るものよりも地震動が小さくなる 手法を採用した上、短周期をさら に 1.5 倍する等の不確かさの 考慮をしなかったため、元のケー スの不確かさの範囲に収まると いう不自然な結果になってしま ったこと	https:// www.nsr. go.jp/ data/00 015691 3.pdf
甲 3 3 7	平成 28 年度原子力規制委 員会第 20 回会議議事録 (抜粋) 1～10 頁	H28.7.13	原子力規 制委員会	原子力規制庁の職員は、武村式を 試算に用いた際、統計的グリーン 関数法が関西電力のものよりも 小さくなる設定をしたことを規 制委員会に報告しなかったこと	https:// www.nsr. go.jp/ data/00 015759 3.pdf
甲 3 3 8	原子力規制委員会記者会 見録	同上	同上	小林総括官は、試算結果につき島 崎氏が納得したと言ったと、虚偽 を記者会見で述べたこと	http://w ww.nsr. go.jp/da ta/0001 56872.p df

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 3 9	(統計的グリーン関数法による) 平均速度応答スペクトルの比較 (上記記者会見資料)	同上	同上	武村式を用いた地震動の試算結果が、入倉・三宅式を用いたものの約1.8倍となること	https://www.nsr.go.jp/data/000157590.pdf
甲 3 4 0	「『2016年7月14日 原子力規制委員会委員長 田中俊一様』で始まる書面」	2016(H28).7.14	島崎邦彦	島崎氏が田中委員長に対し、規制委員会の議論及び結論に納得していないこと、入倉・三宅式を武村式に入れ替えると、簡単な試算でも基準地震動を大幅に超えることになること	
甲 3 4 1	「入倉・三宅式の問題」	同上	同上	同上 (下記面談時島崎氏使用資料)	https://www.nsr.go.jp/data/000157788.pdf
甲 3 4 2	島崎前原子力規制委員会委員長代理との面会について https://www.nsr.go.jp/data/000157802.pdf (下記第22回会議資料) (別紙 島崎前原子力規制委員会委員長代理との面会速記録(未定稿))	H28.7.20	原子力規制庁	平成28年7月19日の島崎氏と規制委員会との2度目の面談の際、島崎氏は規制庁の試算結果を高く評価する一方で、規制委員会側が自らこれを否定するという、異例のやり取りがなされたこと等	
甲 3 4 3	平成28年度原子力規制委員会第22回会議議事録 (抜粋) 1, 2頁 8~24頁 https://www.nsr.go.jp/data/000158203.pdf	H28.7.20	原子力規制委員会	原子力規制庁が第20回会合において試算結果の説明が足りなかったと、委員が反発したこと	
甲 3 4 4	原子力規制委員会記者会見録 http://www.nsr.go.jp/data/000157784.pdf	同上	同上	第22回会合を受けての規制委員会の定例記者会見の内容	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 4 5	大飯発電所の地震動に係る試算の過程等について https://www.nsr.go.jp/data/000158806.pdf	H28.7.27	原子力規制庁	原子力規制庁が行った試算の詳細について	
甲 3 4 6	平成 28 年度原子力規制委員会第 23 回会議議事録 (抜粋) 1 ～ 2 0 頁 https://www.nsr.go.jp/data/000159416.pdf	H28.7.27	原子力規制委員会	大飯原発の基準地震動の見直しの検討が打ち切られたこと	
甲 3 4 7	原子力規制委員会記者会見録 http://www.nsr.go.jp/data/000159200.pdf	H28.7.27	同上	第 23 回会合を受けての規制委員会の定例記者会見の内容	
甲 3 4 8	NHK 「かぶん」 ブログ「大飯原発の従来地震想定見直さず 改めて決定」	H28.7.27	NHK	防災科学技術研究所の藤原広行氏が、島崎氏の提言を退けた規制委員会の対応について、「熊本地震で新たな知見が得られ、地震の揺れが計算以上になる『不確かさ』も含めて、今の審査のやり方が本当によいのか検証し、審査の手法に反映させるべきだ。その意味で、今回の元委員の指摘は大切に、より時間をかけて検討すべきではないか」とコメントしていること	http://www9.nhk.or.jp/kabun-blog/2020/250034.html
甲 3 4 9	「大飯発電所 地震動評価について」 (抜粋) 表紙、目次、6 頁、6 6 頁 1 6 6 ～ 1 8 2 頁 https://www.nsr.go.jp/data/000140520.pdf	H28.2.19	関西電力株式会社	関西電力は、大飯原発の基準地震動策定において、アスペリティ面積が断層面積の 3 0 % を超えた場合はアスペリティ面積を断層面積の 2 2 % にする方法を採用していること	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 5 0	東洋経済オンライン「大飯原発『基準地震動評価』が批判されるワケ 島崎氏の指摘を規制委は否定したが...」 http://toyokeizai.net/articles/print/131955	H28.8.17	岡 田 広行：東洋経済記者	東京大学地震研究所の瀧藤一起教授が、島崎氏の提言を支持していること	
甲 3 5 1	「2016年4月14日・16日熊本地震の震源過程」 http://taro.eri.u-tokyo.ac.jp/saigai/2016kumamoto/index.html	H28.4.18	瀧藤一起 小林広明 三宅弘恵	東京大学地震研究所の瀧藤一起教授らのグループが熊本地震の震源インバージョンを行っていること	
甲 3 5 2 の 1	DVD 「そもそも総研」『そもそも熊本地震の後、原発は大丈夫なのだろうか?』	H28.8.18	テレビ朝日	・東京大学地震研究所の瀧藤一起教授が、島崎氏による入倉・三宅式の適用についての提言について、結論において支持していること ・熊本地震の地震規模は、入倉・三宅式を使うと過小評価になってしまうこと ・地震予測に限界が大きいこと	★ 追って提出
甲 3 5 2 の 2	報告書	H28.8.25	弁 護 士 甫守一樹	・上記DVDの内容	
甲 3 5 3	大飯原発 「地震動、再計算を」元委員が規制委に要請 http://mainichi.jp/articles/20160617/k00/00m/040/123000c?mode=print	H28.6.16	毎日新聞 岡田英	入倉孝次郎氏が、入倉・三宅式について、「地震の揺れの予測に使う場合には、断層面が垂直に近いと地震規模が小さくなる可能性はある。行政判断として、過小評価にならないよう注意しながら使うべきだ」と述べていること	
甲 3 5 4	全国地震動予測地図 2016年版 地図編 141頁 「震源断層を特定した地震動予測地図」 http://www.jishin.go.jp/main/chousa/16_yosokuhizu/h_3.pdf	H28.6	地震調査研究推進本部 地震調査委員会	2016年版の全国地震動予測地図でも地震規模の算出には松田式 ($M=(\log L+2.9)/0.6$) を用いている修正レシピが主に使われていること	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 5 5	全国地震動予測地図 2016 年版 付録1 補足解説 (抜粋) 付録 1-1 ~1-4 http://www.jishin.go.jp/main/chousa/16_yosokuhizu/h_5_1.pdf	同上	同上	2016年版の全国地震動予測地図でも地震規模の算出には松田式 ($M=(\log L+2.9)/0.6$) を用いる修正レシピ (レシピの (イ) の手法) が主に使われていること	
甲 3 5 6	「島崎邦彦氏の問題提起と2016年6月改訂新レシピは原発基準地震動の根本改定を求めている」	2016.7.4	長沢啓行・大阪府立大学名誉教授	入倉・三宅(2001)を他の式に入れ替えて新レシピを適用すると伊方原発についても基準地震動の引き上げが避けられないこと	http://wakasa-net.sakura.ne.jp/pre/news/161.pdf
甲 3 5 7	「『耐震設計審査指針改訂に伴う中国電力株式会社 島根原子力発電所1, 2号機新耐震安全性に係る中間報告の評価について』に対する見解」 (抜粋) 表紙~2頁、 12~14頁 http://www.pref.shimane.lg.jp/bousai_info/bousai/bousai/genshiryoku/antai64.data/64-No.8-2.pdf	H22.3.18	原子力安全委員会	原子力安全委員会は、島根原発について、中国電力に対し、修正レシピで計算するように指示をしていること	
甲 3 5 8	原子力規制委員会HP 原子力規制委員会 検討チーム等 http://www.nsr.go.jp/disclosure/committee/youshikisya/	H28.8	原子力規制委員会	原子力規制委員会は、これまで、各テーマに合わせ、外部の有識者、専門家を招き、多くの検討チームや有識者会合等を設置してきたこと	
甲 3 5 9	毎日新聞「<原発・基準地震動>使用回避の計算法、継続の規制委に異議」	H28.8.30	毎日新聞記者 高木昭午	推本の強震動評価では修正レシピが使われており、入倉・三宅式によって地震モーメントは推定されていないこと 瀨瀬教授が「(現行の方式を見直す必要はないとした) 規制委の判断は誤りだ」と指摘していること	http://mainichi.jp/articles/20160830/k00/00m/040/086000c?mo

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
				と 推本では入倉・三宅式に係る記 載についての改訂作業が進んで いること	de=prin t
甲 3 6 0	日本地震学会平成 2 8 年 秋季大会予稿 S 1 5 - 0 6 『震源断層を特定した 地震の強震動予測手法』 と熊本地震」	H28.9	瀧瀬一起	地震動予測手法としては、入 倉・三宅式によって地震モーメン トを推定する(ア)の手法よりも、 松田式によって地震規模を推定 する(イ)の方が妥当であること	
甲 3 6 1	日本地球惑星科学連合 2016 年 大 会 予 稿 SSS25-02「断層幅の不確 実さの強震動評価結果へ の影響に関する検討―活 断層の地震―」	H28.5	森川信之 前田宜浩 岩城麻子 藤原広行	微小地震の震源分布から地震 発生層の下限深さを評価してい ると、大地震発生時に断層下端が それよりも深くなる可能性があ ること	https://confit.atlas.jp/guide/event-img/jpgu2016/SSS25-02/public/pdf?type=in
甲 3 6 2	東洋経済オンライン「原子力規制委に地震動の専門家がいない！ 大飯原発・基準地震動の過小評価は深刻」 http://toyokeizai.net/articles/-/127729	H28.7.17	東洋経済 記者 岡 田広行	規制委員会による地震動評価 の信頼性に疑念が生じているこ と	
甲 3 6 3	新聞記事「特集ワイド『忘 災』の原発列島 揺れ過 小評価を指摘 島崎元規 制委員長代理『過ち繰り返したくない』 東日本大震災前の東北津 波想定 言っても無駄と 黙った原罪」	H28.7.21	毎日新聞 記者 高 木昭午	島崎氏が入倉・三宅式による過 小評価の問題を指摘した動機 瀧瀬氏が地震動の計算では倍 半分程度の誤差が不可避である と述べていること 島崎氏は藤原氏から「揺れの計 算結果にもっと大きな幅を見込 んで規制してはどうか」と提案を 受けたが、その提案を却下したこ と 規制委員会には強震動評価に ついての専門性が欠如している こと	http://mainichi.jp/articles/2016/0720/00e/012/040/018000c

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 6 4	新聞記事「社説 原発の耐震想定 規制委は信頼損なった」 http://mainichi.jp/articles/20160724/ddm/005/070/002000c	2016(H28) 7.24	毎日新聞	入倉・三宅式問題についての原子力規制委員会の対応について批判されていること	
甲 3 6 5	新聞記事 「(社説) 原発と地震 異見生かして検証を」 http://www.asahi.com/articles/DA3S12478047.html	H28.7.25	朝日新聞	東日本大震災と原発事故から得た教訓からすれば、「根拠が確立されなければ見直すわけにはいかない」という規制委の「待ちの姿勢」には問題があること	
甲 3 6 6	新聞記事「原発の新たな知見 積極的な検証が規制委の責務だ」 http://www.ehime-np.co.jp/rensai/shasetsu/ren017201607286698.html	H28.7.28	愛媛新聞	原子力規制委員会が再計算に問題があったことを認めながら、計算をやり直さず幕引きを図ったことについて、「『黙殺』にも等しい対応に猛省を促したい」という批判がされていること	
甲 3 6 7	新聞記事「社説 基準地震動 規制委への不信が拭えぬ」 http://www.kyoto-np.co.jp/info/syasetu/20160731_3.html	H28.7.31	京都新聞	原子力規制委員会が再計算の甘さに気付かなかったことは、過小評価という批判を否定するのを急いだためと見られても仕方がないこと、再度の見直し不要との判断にはとても納得できないこと、最高度の安全を守るためには、規制委が積極的に遅延の妥当性について議論を起こすべきであり、今回の規制委の対応は国民の信頼を大きく損ねたこと	
甲 3 6 8	新聞記事「社説 大飯原発地震動 専門家の意見を聞け」 http://www.chunichi.co.jp/article/column/editorial/CK2016080202000112.html#print	2016(H28) 8.2	中日新聞	規制委に地震学の専門家がないことからすれば、活断層調査のように、島崎氏の指摘について地震学会に協力を求めるべきこと、計算式が複数ある場合、合理的な式の中で最大値を選ぶのが安全サイドに立つ考え方であること	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 6 9	MONEY VOICE 「復活の『原子カムラ』3.11の教訓を一顧だにせぬ原発再稼働の内幕＝新恭」 http://www.mag2.com/p/money/19505?l=jxd00c72a8 (以下4ページ、広告のみのページはカット)	2016(H28) .8.6	ビ ジ ネ ス・ライ ブ	島崎氏の一連の提言に対する規制当局の対応について、3.11の教訓が一顧だにされていないとの厳しい批判がされていること	
甲 3 7 0	第86回原子力安全専門委員会議事概要 (抜粋) 1～4頁	H28.8.31	福井県	福井県原子力安全専門委員会委員の田島俊彦福井県立大学名誉教授より、島崎氏による一連の問題提起を受けて、規制庁に対し、基準地震動策定手法の見直しの要請があったこと	http://www.atom.pref.fukui.jp/senmon/dai86kai/giji.pdf
甲 3 7 1	震源断層を特定した地震の強震動予測手法(「レシピ」)	H28.6.10	地震調査 研究推進 本部 地 震調査委 員会	推本が平成28年6月10日付で改訂したレシピの内容	http://www.jishin.go.jp/main/chousa/16_yosoku_chizu/recipe.pdf
甲 3 7 2	活断層研究と内陸地震の長期予測：阪神淡路大震災以降	H22.2	遠田晋次	2007年能登半島地震や、同年新潟県中越沖地震が、地表に明瞭な地震断層を伴わない、もしくは震源断層との対応関係が不明な地震断層を伴う地震であること	http://www.jsnds.org/sk/ssk_28_4_299.pdf
甲 3 7 3	特集ワイド 『忘災』の原発列島 分からないから無視？隠れ断層	H28.6.24	毎日新聞 記者 高 木昭午	「震源を特定せず策定する地震動」についての運用の問題点について	http://mainichi.jp/articles/20160624/012/040/003000c

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 7 4	活断層の長期評価手法 (抜粋) 表紙、目次、 28～32 頁	H22.11.25	地震調査 研究推進 本部 地 震調査委 員会 長 期評価部 会	新潟県中越沖地震について、活断層の関連付けを認めるかどうかという点において推本の評価が分かれており、仮に地表地震断層を伴うとしてもこれが1 kmとされていること	http://jishin.go.jp/main/choukihyoka/katsuhyokashuho/honpen.pdf
甲 3 7 5	意見書	H28.9.9	野津厚	大飯原発の「震源を特定せず策定する地震動」でも岩手・宮城内陸地震を採用すべきこと	
甲 3 7 6	伊方発電所 地震動評価について (抜粋) 表紙、102 頁	H27.3.20	四国電力	鳥取県西部地震の際に日野観測点で観測された地震動の大きさ	https://www.nsr.go.jp/data/000100928.pdf
甲 3 7 7	伊方発電所 地震動評価 震源を特定せず策定する地震動と基準地震動の策定(コメント回答) (抜粋) 表紙、72～87 頁	H26.11.7	四国電力	Mw6.5 未満の地震のうち、特に2011年長野県北部地震NIG023(津南)、2011年和歌山県北部地震WKYH01(広川)、2013年栃木県北部地震TCGH07(栗山西)の応答スペクトルは、「加藤他(2004)のスペクトル」を有意に上回っていること	https://www.nsr.go.jp/data/000036092.pdf
甲 3 7 8	旧組織からの情報-原子力安全・保安院 地震・津波に関する意見聴取会 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/800_26_index.html	H27.8.2	国立国会図書館	地震・津波に関する意見聴取会の概要	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 7 9	第 1 回 地震・津波の解析 結果の評価に関する意見聴 取会 議事録 (抜粋) 1～4 頁、23, 24 頁 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/001/gijiroku01.pdf	H23. 9. 30	経済産業 省 原子 力安全・ 保安院	不確かさの定量化の必要性を 藤原氏が訴えていること	
甲 3 8 0	第 4 回 地震・津波に関す る意見聴取会 議事録 (抜粋) 1～6 頁、19, 20 頁 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/004/gijiroku04.pdf	H23. 11. 8	経済産業 省 原子 力安全・ 保安院	藤原氏が、東北地方太平洋沖地 震を受けて、基準地震動における 基本モデルの妥当性についての 議論の必要性を訴えていること	
甲 3 8 1	第 5 回 地震・津波に関す る意見聴取会 議事録 (抜粋) 表紙、26～28 頁 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/005/gijiroku05.pdf	H23. 11. 16	経済産業 省 原子 力安全・ 保安院	藤原氏が、「震源を特定せず策 定する地震動」について、「そも もわからない部分をどうい うふうに与えるのか」という点につ き問題提起をしていること	
甲 3 8 2	第 2 回 地震・津波に関 する意見聴取会 (地震動 関係) 議事録 (抜粋) 表紙、24～28 頁 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/3_002/gijiroku02.pdf	H24. 4. 25	経済産業 省 原子 力安全・ 保安院	藤原氏が、アスペリティ応力降 下量のばらつきを 1. 5 倍とする ことによって十分な余裕度が見 られる条件についての検討を求 めていること	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 8 3	第 3 回 地震・津波に関する意見聴取会（地震動関係）議事録 （抜粋） 表紙、25～30 頁 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/3_003/gijiroku03.pdf	H24. 5. 11	経済産業省 原子力安全・保安院	藤原氏が、不確かさの重畳考慮についての検討を求めていること	
甲 3 8 4	第 4 回 地震・津波に関する意見聴取会（地震動関係）議事録 （抜粋） 表紙～11 頁 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/3_004/gijiroku04.pdf	H24. 5. 29	経済産業省 原子力安全・保安院	藤原氏が、アスペリティ応力降下量の不確かさの考慮について、1. 5 倍または 2. 5 MPa のいずれか大きい方にすることを提案していること	
甲 3 8 5	第 5 回 地震・津波に関する意見聴取会（地震動関係）議事録 （抜粋） 表紙～14 頁 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/3_005/gijiroku05.pdf	H24. 6. 19	経済産業省 原子力安全・保安院	藤原氏が、課題として先送りしたものについては、必ず不確かさとして何らかの考慮をしないと穴が開いてしまうと問題提起をしていること	
甲 3 8 6	第 6 回 地震・津波に関する意見聴取会（地震動関係）議事録 （抜粋） 表紙～11 頁 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/3_006/gijiroku06.pdf	H24. 7. 18	経済産業省 原子力安全・保安院	藤原氏が、人間の認識不足に起因する不確かさを上乘せすることを提言していること	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 8 7	地震・津波（地震動） 6 － 6 － 2 「活断層による地震動評価の不確かさの考慮について（考え方の整理）」 （上記会議配布資料） http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/3_006/6-2-2.pdf	H24. 7. 18	原子力安全・保安院 耐震安全審査室	同上	
甲 3 8 8	地震・津波（地震動） 7 － 2 － 1 「活断層による地震動評価の不確かさの考慮に係る考え方の整理（案）に対する各委員からのコメント」 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9483636/www.nsr.go.jp/archive/nisa/shingikai/800/26/3_007/7-2-1.pdf	H24. 8. 17	原子力安全・保安院	「地震・津波に関する意見聴取会」で出された地震動評価の不確かさに関する外部専門家委員のコメント	
甲 3 8 9 の 1	発電用軽水型原子炉施設の地震・津波に関わる新安全設計基準に関する検討チーム 第 3 回会合 議事録 （抜粋） 表紙、1 頁 3 0, 3 1 頁 4 4 ～ 5 1 頁 http://www.nsr.go.jp/data/000050765.pdf	H24. 12. 7	原子力規制委員会	「震源を特定して策定する地震動」についても新規規制基準に「各種不確かさの考慮」が規定された経緯 三次元地下構造の把握の重要性とその限界を踏まえた不確かさの考慮の必要性 震源近傍の地震動について不確かさが大きいこと	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲 3 8 9 の 2	震基 3 - 4 「(骨子素案) 発電用軽水型原子炉施設 の地震及び津波に関わる 新安全設計審査基準」 (抜粋) 表紙、5 頁 http://www.nsr.go.jp/d a/000050658.pdf (上記地震・津波検討チ ーム配布資料)	同上	同上	同上	
甲 3 9 0 の 1	発電用軽水型原子炉施設 の地震・津波に関わる新 安全設計基準に関する検 討チーム 第 5 回会合 議事録 (抜粋) 表紙、1 頁、30~64 頁 http://www.nsr.go.jp/d ata/000050767.pdf	H24.12.27	原子力規 制委員会	藤原氏が、地震については不確 実性が大きいことから、「検討用 地震」の選定の妥当性や不確かさ の考慮の妥当性について、基準を 明確化する必要がある、と述べて いること	
甲 3 9 0 の 2	発電用軽水型原子炉施設 の地震・津波に関わる新 安全設計基準に関する検 討チーム 第 5 回配布資料 「震基 4 - 2 新安全設計 基準 (骨子素案) に関す るメモ」 https://www.nsr.go.jp/ data/000050673.pdf	同上	藤原広行	同上	
甲 3 9 1	発電用軽水型原子炉施設 の地震・津波に関わる新 安全設計基準に関する検 討チーム 第 6 回会合 議事録 (抜粋) 表紙、1 頁、3 3 頁 http://www.nsr.go.jp/d ata/000050768.pdf	H25.1.15	原子力規 制委員会	同上	
甲 3 9 2	発電用軽水型原子炉の地 震・津波に関わる新安全 設計基準に関する検討チ ーム 第 7 回会合議事録 (抜粋)	2013 (H25).1.22	原子力規 制委員会	・「震源を特定せず策定する地 震動」において「各種不確かさ」 を考慮することに決まった経緯 (6 6 頁)	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
	表紙, 2 頁 5 8 ~ 6 6 頁 http://www.nsr.go.jp/data/000050769.pdf				
甲 3 9 3	発電用軽水型原子炉施設の地震・津波に関わる新安全設計基準に関する検討チーム 第 8 回会合 議事録 (抜粋) 表紙, 1 頁 3 3 ~ 3 7 頁 http://www.nsr.go.jp/data/000050770.pdf	H25. 1. 29	原子力規制委員会	現在の地震動予測の不確実性を踏まえるならば、1 万年に 1 回以下では十分な保守性を確保することは出来ず、少なくとも検討段階では 1 0 万年に 1 回 (1 0 ⁻⁵) 程度の頻度まで考慮することは必要であること	
甲 3 9 4	発電用軽水型原子炉施設の地震・津波に関わる新安全設計基準に関する検討チーム 第 9 回会合 議事録 (抜粋) 表紙 ~ 3 7 頁 http://www.nsr.go.jp/data/000050771.pdf	H25. 3. 13	原子力規制委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・入倉・三宅式による地震モーメント過小評価のおそれ (1 2 頁) ・不確かさの考慮の客観化、明確化の必要性 (2 9 頁) ・安全目標と基準地震動に係る基準の関連付けの必要性 (3 6 頁) 	
甲 3 9 5	発電用軽水型原子炉施設の地震・津波に関わる新安全設計基準に関する検討チーム 第 1 0 回会合 議事録 (抜粋) 1, 2 頁 5 9, 6 0 頁 http://www.nsr.go.jp/data/000050772.pdf	H25. 3. 22	原子力規制委員会	不確かさの考慮についての規定が曖昧であったため、本来であれば実験的適用が必要であったこと	
甲 3 9 6	発電用軽水型原子炉の地震・津波に関わる新安全設計基準に関する検討チーム 第 1 1 回会合議事録 (抜粋) 表紙, 2 頁 3 3 ~ 4 2 頁 http://www.nsr.go.jp/d	H25. 4. 2	原子力規制委員会	審査ガイド「2. 基本方針」(4)に「可能性のある地震動全体の考慮」が規定された経緯	

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
	ata/000050773.pdf				
甲 3 9 7	発電用軽水型原子炉の地震・津波に関わる新規制基準に関する検討チーム第12回会合議事録 (抜粋) 表紙, 2頁 55, 56頁 http://www.nsr.go.jp/data/000050774.pdf	H25.4.5	原子力規制委員会	審査ガイド「2. 基本方針」(4)に「可能性のある地震動全体の考慮」が規定された経緯	
甲 3 9 8	発電用軽水型原子炉施設の地震・津波に関わる新安全設計基準に関する検討チーム第13回会合 議事録 (抜粋) 1, 2頁 47~50頁 http://www.nsr.go.jp/data/000050775.pdf	H25.6.6	原子力規制委員会	基準地震動に係る新規制基準が不明確なまま施行された経緯	甲 1 9 5
甲 3 9 9	「各国(日本, 米国, 英国, 仏国)における確率論的リスク評価の活用状況」 (抜粋) 表紙, 30, 31頁 http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/denkijigyuu/jishutekianzensei/pdf/005_01_00.pdf	H27.1	経済産業省	平成25年4月10日に定められた安全目標の内容	
甲 4 0 0	「クリフエッジを超える大飯原発・美浜3号は廃炉に 再稼働はやめて、全ての原発の基準地震動を武村式で評価し直すこと」	H28.7.24	小山英之	壇ほか(2001)の式によって短周期レベルの平均値を推定できるとは限らないこと	http://www.jca.apc.org/mihama/saikado/kenkai160724.pdf

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨	備考
甲401	土木学会論文集 A Vol.62 No.4、740-757「短 周期レベルをパラメータ とした地震動強さの距離 減衰式」	H18.10	片岡正次 郎ほか	AとM _o との関係式について、 壇ほか(2001)が平均から大きく ずれているおそれがあること (745頁)	https://www.jsstage.jst.go.jp/article/jsc_eja/62/4/62_4_740/_pdf
甲402	第2回 地震・津波リス ク専門家フォーラム詳細 記録	H25.12.21	東京大学 政策ビジ ョン研究 センター 社会的合 意形成支 援研究ユ ニット	基準地震動は元々超過するこ とを前提に作られていること	http://pari.u-tokyo.ac.jp/unit/riskcafe/jishin/forum2-report.pdf